

ダイヤモンドは何かですか？

ダイヤモンド道

—EAVのドクター・フォルと
意識指数のデヴィッド・R・ホーキンス博士に
敬意を表して—

田村(・タカ)熾鴻
たろ ひろ
しやう ぶん
(本名・富保)



サイババの言葉がヒントになって閃いた！
ダイヤモンドと共に生きながら心を磨く
神道でもなく
仏教でもなく
いかなる宗教でもない……ダイヤモンド道

記念すべき新年が始まっていました。100年記念の年です。ずっと思っていました。アイデアル・カット提唱のトルコフスキーの生誕100年目だと……。だから、お墓参りをしたくて、どこに眠っているのかをずっと調べていた。

エイトスター・ダイヤモンドの始まり、アメリカン・アイデアルカットが発表されたのが、1919年のこと。この年を生誕の年として見つけていましたが、大間違い。100周年は、アイデアル・カットが発表された年からだったと。そこからの100年目。しかし違ったことが分かった時点で改めて、敬意を表しての、生みの親のトルコフスキーのことをおさらいしてみようと思いました。

ネット検索によると、

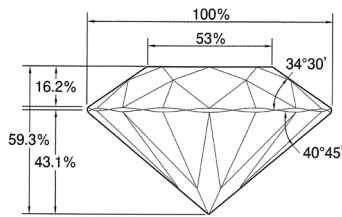
マルセル・トルコフスキー

生：1899年12月25日

死：1991年 2月10日

ベルギーのアントウェルペンに生まれ、ニューヨークで死去。

ロンドン大学で博士号を取得する過程でダイヤモンド磨きを学び、卒論でアイデアル・カットを発表。1919年、20歳の時であった。数学、地質学、物理学を学んだお蔭で、ダイヤモンド原石の中にある全面に光を完全反射させるラウンドブリリアント・カットのデザインを科学的に完成させることが出来た。1940年にアメリカへ移住し、1975年にリタイアするまでダイヤモンド業界へ積極的に関わっていた。1991年心臓マヒのため92歳で死去。今日でも彼のカットが世界で最も理想的なカットだと言われている。（-ネットより）



生きていたんだ。会いたかった。理論の発表が1919年だったから、とっくに亡くなっている人かと思って調べなかった。業界の人が今も生きているよ、って言うてくれていたら、1985年にカットが完成した後に会いに行っただろうに……。

それにしても、不思議な人だったんだ。天に使われた一人だった、と今の私には言える。亡くなった年が、1991年だったとは……。1919年に理論を発表し、1991年に天に召された。同じ数値を使って天は導いていた。特別な人の証だ。

私が、エイトスター・ダイヤモンドを完成したのが、1985年10月のこと。カット完成から、5年間は生きていたのだ。しかも、ニューヨーク在住。エイトスターを見せることが出来たと思うと、悔いが残ります。

理論通りに磨かれたダイヤモンドを観ることなく、天に帰っていたトルコフスキー。当時、トルコフスキーの理論通りに磨いていると言っていた会社が3社あった。キャプラン社・カイガー社・ケピー社がアメリカン・アイデアル・カットのダイヤモンド研磨社としてしのぎを削っていた。アイデアル・カットのダイヤモンドを探し求めて、私が飛び込んだのはピッツバークにあったケピー社。しかし、理論通りに磨いているという会社にも完璧なカットのダイヤモンドはなかった。ルーペを使ってのダイヤモンドの善し悪しの鑑定では、立体的なカットの状況を観ることは出来ない。大まかな形と表面の磨き加減を覗くだけ。そんな世界に、変人が一人。

「理論は、完璧だよ。だけど、理論通りに磨かれている、というこのダイヤモンドが本当にそうなのか俺には分からない。解るようにして来いよ」と言って、アイデアル・カットを売りに来た男を追い返した私が居た。

それから7年後、カットの良し悪しが観られるファイヤー・スコープを持って、本物のアイデアル・カットのダイヤモンドを見つける旅に出た。8ヶ月間旅を続けたが見つからなかった。その頃世の中には無かったのである。自らで磨くことを決めた男は、4ヶ月でアイデアル・カットを完成させた。1985年のこと。

以来33年、年齢を重ねて77歳になった。その間に神・仏、精神的な修行も積み、気が付いたのがトルコフスキーのお墓参り。エイトスター完成の時、生きて居られた。ケピー社を訪ねた時にもトルコフスキーの生存を一言も言っていなかったなんて…。ニューヨークの宣伝会社（電通のような）の中にあったダイヤモンドを啓蒙・宣伝するデ・ビースの人たちも話していなかった。

当時の大半のカットが、大きめに磨かれていた時代に、アイデアル・カットの一端は観られることは出来ただろうが、トルコフスキーが打ち出した理想のダイヤモンドを実際には目にしたことが無かっただろう。エイトスターのような姿・形ではなくとも、完全対称のエイトスター・カットは、世に無かったのだから。そう思うと、トルコフスキーに本当に観て頂きたかった。残念!!

そう思いながら、2019年、この一年はトルコフスキーに敬意を表して、企画を考えてみる事にしました。第一弾は14頁をご参照下さい。

アイデールの日本訳は、理想、極致、理想的なもの、典型、崇高な目標。理想のダイヤモンド・カット理論を打ち出したトルコフスキー。それは使命だったのでしょ。その意志を受け継ぎ、それを実現させるために私が選ばれ、理想のカットを実現させ、さらにその先にある理想のダイヤモンドが秘めた世界を明らかにするという使命が託されていた、と今に至るとはっきりと認識できるのです。

御礼が大変に遅くなりました。今年も沢山の年賀状を頂きました。有り難う御座いました。年に4回発行する季刊誌の発行日は9日にこだわり、年初めとなる季刊誌は3月9日。だから、新年の挨拶がドンピシャのタイミングで出来ません。そんな季刊誌の年初めは、皆さまの年賀状を頂いてからの発行になり、新年の挨拶が節分を過ぎてからになってしまいます。

今年も賀状の中にとっても印象に残った賀状がありました。書き下ろしのよっちゃんこと西山嘉克氏からの賀状です。修行中は、街角に座って縁ある多くの人へ閃いた素晴らしい言葉を書き、その人の心を揺さぶる書き下ろしをしてい

たというよっちゃん。その後よっちゃんの名は広まり言魂アーティストとして活動していましたが、前号でご紹介した通り、アーティストとしての肩書を卒業して、自然な暮らしを営む一人の人間として再出発しました。大自然との共存共栄を追求する暮らしの中から送られた2019年の賀状でした。

『エイトスター・ダイヤモンド

どこまでも進化の先駆け。どこまでも進化のひな型。

ここまでの全てに感謝と敬意を払い、そしてまた次へ。

前人未到の領域へ。最前線で美しく輝きながら。』

西山君はお客様からの紹介で知ったのですが、魅力を感じた私はすぐに書き下ろしをお願いしました。最初の依頼に応じて送られてきたエイトスターに関する書き下ろしは、エイトスターを見たことも、私に会ったこともない、ネット上のエイトスターの情報だけを読んで2011年11月18日付けで送られてきたものです。

『エイトスター・ダイヤモンド

月日を経て 年月を経て さらにさらに深まり続けてゆく美しさがここにある。

深まり続けてゆくのは 本物の証。

ここにある想いも真心も願いも祈りも そして 愛も 本物だから。』

折角なので、その時の私への書き下ろしも紹介させて下さい。

『田村熾鴻

真実のみを見極めてゆく。本物のみを見極めてゆく。

その力を授かったのは、熾鴻が新しい時代を 道を 切り開いてゆく人だから。

ただただ ただただ 真実のみを本物のみを』(2011・9・6)

エイトスターを見たことも、私に会ったこともない、よっちゃんの文章に心打たれました。こんな短く、鋭く、エイトスターを語った感性とハートを持つ西山よっちゃん。今年の賀状の言葉も、アイデアルという言葉に相応しいものでした。さらに精進して、前人未到の領域までも道は続いていくのです。

乞うご期待ください。